



「One to One」のイラストレーション

スクールサポーター
(臨床心理士・公認心理師)
小林 真理

学びの方法

町立3小学校と中学校には「知的障害児学級（知障）」と「自閉症・情緒障害児学級（自・情障）」という特別支援学級（特支）があります。学校によってクラスの名前は異なり東部小学校では知障を「たんぽぽ」自・情障を「One to One」中部小学校では知障を「りんご」自・情障を「たんぽぽ」西部小学校では知障を「梅組」自・情障を「桜組」、そして令和5年度に開設された肢体不自由・病弱児学級を「桃組」と呼んでいます。町内の小学校で合わせると、約60名の児童生徒がここで学んでいます。利用している子どもたちの生活パターンは様々で、1日中、特支で学び、みんなとできそうな場面は通常のクラスで学ぶ子どもたちや、普段は通常のクラスで学びながら必要に応じて特支を利用して学ぶ子どもたちもいます。子どもたち同士は、どこにいてもそれぞれが自分の学びを頑

張っていることを理解しているため、クラスを行き来する際には「いつてきます」「いつてらっしゃい」「ただいま」「おかえり」といったやりとりが日常的な光景となっています。利用を検討している保護者の方と相談をしていると、「知障」と「自・情障」の違いについて聞かれることがよくあります。「知障」は、その子どもが将来自立した生活を送るために、必要なスキルや学びを身に着けるクラスです。「自・情障」は文部科学省が定めた学年のカリキュラムを、子ども達の特性に応じた方法で学んでいくクラスとなります。また、肢体不自由・病弱児学級では、医療的ケアを必要とする子どもが、様々な活動を通して学んでいます。それぞれの学びの場について説明をしていると、「今はずいぶん手厚いんですね」「昔とは全然違いますね」と、多様な学びの方法に驚かれる方がたくさんいらっしゃいます。

また、町では令和6年度4月から、中部小学校に「LD等通級指導教室（通級）」、東部小学校と西部小学校に「LD等通級指導教室サテライト教室」が開設されます。サテライト教室というのは、中部小学校の通級の先生が、曜日を決めて東部小学校と西部小学校に行って授業をするという形態のことです。通級とは普段は通常のクラスで学び1週間に1回程度1対1で通級を利用して子どもの特性に応じた学び方を学ぶクラスのことを言います（令和6年2月号の『広報かるいざわ』に掲載）。特支で継続的な学びを積み重ねるほどではなくても、特性からみんなと同じ方法で学ぶことが難しい点がある場合に、利用を検討することができます。

子どもたちはどの子も「できるようになりたい」「わかるようになりたい」と強く思っています。「この方法でやればできる」「みんなと同じやり方じゃなくていいから、勉強できるよつになりたい」「むしろこっち（代替手段）の方がいい」といった言葉は、実際に子どもたちが話してくれたものです。大人が学びの方法を理解していくことで、子どもたちの学びへの思いをかなえていくことにつながるかもしれませんね。

過去の「One to One」は、町ホームページからご覧になれます。

（仮称）西部小学校東教室棟の建設について

西部小学校区の児童数増加に伴い、現在プレハブ仮設校舎にて授業を行っていますが、今後の教室不足解消のため、新たに（仮称）西部小学校東教室棟の建設を計画しています。新たな教室棟を建設するにあたり、NSD（長野県スクールデザイン）、FLA（フリーラーニングエリア）というコンセプトに基づき設計を行いました。新たな多目的スペースを使用しながら学びの向上を図れるよう計画をしていきます。

NSD
（長野県スクールデザイン）

長野県教育委員会が提示しているプロジェクトです。現代社会における本質的な「学び」を実現するためには、学校建築・学校空間そのものを変える必要があるということ、ハードとソフトが揃って初めて本当の「学び」が実現するという思いが込められています。

詳しくは町ホームページ

FLA
（フリーラーニングエリア）

可動式の壁を用い、フロア全体を学習スペースとして利用できる作りにするというものです。1階部分全体を放課後子ども教室として使用したり、学習の多目的スペースとして取り入れたりとできる自由なデザインとなります。

【問い合わせ】 こども教育課 学校教育係 ☎45-8672